

令和7年度優秀映画鑑賞推進事業

第24回市民会館名画劇場



天国と地獄



用心棒

<上映スケジュール>

22日 開場 9:30

①10:00~12:23「天国と地獄」

②13:30~15:20「用心棒」

23日 開場 9:30

①10:00~12:18「隠し砦の三悪人」

②13:30~15:53「生きる」

人間の善と悪、大胆な構成と躍動感あふれる演出で描き続け、世界中の映画人と観客を魅了した黒澤明監督の傑作を紹介。



隠し砦の三悪人



生きる

2025年9月22日(月)・23日(火・祝)

下関市民会館大ホール

鑑賞料 全席自由1日券500円 チケット発売日8月1日(金)

プレイガイド／下関市民会館、ドリームシップ、下関市民会館オンラインチケット

※発売初日のみ、窓口販売10:00～、電話予約・オンライン購入13:00～

※昼食・飲み物は持参可能です。ただしホール内は飲食禁止のため大ホールロビーをご使用ください。

●主催:公益財団法人下関市文化振興財団、国立映画アーカイブ ●特別協力:文化庁、一般社団法人日本映画製作者連盟、全国興行生活衛生同業組合連合会 松竹株式会社、東宝株式会社、東映株式会社、株式会社 KADOKAWA ●後援:下関市、下関市教育委員会、下関市文化連合会



お問い合わせ:(公財)下関市文化振興財団 TEL.083-231-6401 <https://scpf.jp>→
X、Instagram、下関市民会館 ドリームシップ 公式アカウント更新中!



生きる

1952年 東宝
(白黒/スタンダード/モノラル/143分)

【スタッフ】

脚本 橋本忍
// 小国英雄
脚本・監督 黒澤明
撮影 中井朝一
照明 森茂
録音 矢野口文雄
音楽 早坂文雄
美術 松山崇

【出演者】

渡辺勘治 志村喬
小田切とよ 小田切みき
市民課 坂井 田中春男
野口 千秋実
大野 藤原釜足
勘治の息子 光男 金子信雄
勘治の兄 喜一 小堀誠
その妻 たつ 浦辺条子
小説家 伊藤雄之助
患者 渡辺篤
医師 清水将夫



それまで無気力に生きてきた一人の役人が、死という絶対的なものを目前にして、自分を見つめ直し、人間としての尊厳をとりもどしていく姿を描いた作品で、主役を演じた志村喬の〈ゴンドラの歌〉が感動的。胃癌であると知った男は、夜の街をさまよっては見知らぬ男と暴飲に明け暮れるが、部下の言葉により生き方を変えはじめる。映画の途中で場面が突然夜の通夜へと変わり、参列者の回想により、男のそれまでの行動が断片的に描かれるという、特異な物語構造も注目を集めた。第4回ベルリン映画祭でのベルリン市政府特別賞受賞や、「キネマ旬報」バストテン第1位など国内外で高い評価を得た。黒澤明と脚本家の小国英雄が初めて組んだ作品でもある。

用心棒

1961年 東宝=黒沢プロダクション
(白黒/シネマスコープ/モノラル/110分)

【スタッフ】

脚本・監督 黒澤明
脚本 菊島隆三
撮影 宮川一夫
照明 石井長四郎
録音 三上長七郎
// 下永尚
音楽 佐藤勝
美術 村木与四郎

【出演者】

桑畑三十郎 三船敏郎
新田の卯之助 仲代達矢
ぬい 司葉子
清兵衛の女房おりん 山田五十鈴
卯之助の次男亥之吉 加東大介
馬目の清兵衛 河津清三郎
造酒屋徳右衛門 志村喬
百姓の小倅 夏木陽介
居酒屋の権爺 東野英治郎
名主多左衛門 藤原釜足

ダシール・ハメットのハードボイルド小説『血の収穫』を大胆に翻案、西部劇の手法を取り入れながら、三船敏郎演じる浪人の痛快無比な姿を描いた黒澤明による大ヒット時代劇。舞台は上州、かつて絹市で栄えた宿場町は、清兵衛一家と丑寅一家との抗争で、無法地帯と化していた。そんな宿場に流れ着いた凄腕の浪人、自称・桑畑三十郎は、両家の親分に自らを用心棒として売り込む…。撮影は、東宝撮影所横の農地に巨大なオープンセットを建て、『羅生門』(1950年)以来の黒澤組となった宮川一夫カメラマンが、複数のカメラと望遠レンズを駆使し、シネマスコープの画面を意識した見事なフレーミングで、比類のない娯楽活劇に仕立て上げた。海外でも評判を呼び、盗作騒ぎも起きた『荒野の用心棒』(1964年、セルジオ・レオーネ監督)は、主演クリント・イーストウッドをスターへと押し上げるとともに、イタリア製西部劇(マカロニ・ウェスタン)のはしりとなった。「キネマ旬報」バストテン第2位。

隠し砦の三悪人

1958年 東宝
(白黒/シネマスコープ/モノラル/138分)

【スタッフ】

脚本 菊島隆三
// 小国英雄
// 橋本忍
脚本・監督 黒澤明
撮影 山崎市雄
照明 猪原一郎
録音 矢野口文雄
// 下永尚
音楽 佐藤勝
美術 村木与四郎

【出演者】

真壁六郎太 三船敏郎
雪姫 上原美佐
百姓 太平 千秋実
又七 藤原釜足
田所兵衛 藤田進
老将 長倉和泉 志村喬
百姓娘 樋口年子
老女 三好栄子
落武者 加藤武
山名の番卒 三井弘次
人買い 上田吉二郎

時は戦国時代。隣国との戦いに敗れた秋月家の侍大将(三船敏郎)は、姫を守りながら、軍用金を手に敵中突破を図ろうとしていた。同盟国に脱出するためである。二人の百姓を狂言まわしに使い、お家再興にまつわる宝探し、敵中横断にともなう追っかけなどを盛りこんだ作品。襲いかかるさまざまな難関、手に汗握るスリリングな場面が連続する。そのようなシチュエーションをいかに面白く組み立てるかに脚本家の菊島隆三、小国英雄、橋本忍の三人と黒澤明は大いに知恵を絞ったという。観客を決して飽きさせないという決意がうかがえるシナリオである。この映画が製作された1958年は、映画館入場者数が史上最高の11億2745万人を数えた年である。この時、映画は文字どおり大衆娯楽の王者であり、そしてこの作品は、まさにその記念すべき年にふさわしい作品であった。「キネマ旬報」バストテン第2位。1959年ベルリン国際映画祭監督賞、国際映画批評家賞を受賞。

天国と地獄

1963年 東宝=黒沢プロダクション
(白黒/シネマスコープ/モノラル/143分)

【スタッフ】

原作 エド・マクベイン
脚本 小国英雄
// 菊島隆三
// 久板栄二郎
脚本・監督 黒澤明
撮影 中井朝一
// 斎藤孝雄
照明 森弘充
録音 矢野口文雄
音楽 佐藤勝
美術 村木与四郎

【出演者】

権藤金吾 三船敏郎
戸倉警部 仲代達矢
権藤の妻 伶子 香川京子
権藤の秘書 河西 三橋達也
荒井刑事 木村功
田口部長刑事 石山健二郎
捜査本部長 志村喬
運転手 青木 佐田豊
犯人 山崎努

この作品は、アメリカの推理作家エド・マクベインの「キングの身代金」を映画化したものであるが、ほとんどのトリックは黒澤をはじめとする脚本家たちのアイディアである。この映画のクライマックスは二つある。一つは特急こだまのトイレの窓から身代金の3000万円を投げ出す場面。これは実際運行される車両を借り切って、数台のカメラで同時に撮影された。もう一つは、極刑を課すために犯人を泳がせ、新たな殺人現場におびき出す場面である。『用心棒』(1961)や『椿三十郎』(1962)で、これまでの時代劇にはなかった迫力を演出した黒澤であったが、この作品でも、サスペンス映画に斬新な演出を試みている。〈天国〉に住む富豪と対照的に〈地獄〉に住む青年医師を演じた山崎努は、文学座の新人俳優であったが、この作品で一躍注目を浴びた。「キネマ旬報」バストテン第2位。